り，参加者全員から大きな祝福の拍手が贈られた．昼間の実習でやや疲れ気味の人も多かったが，2 日目の学習会もしっかり行った．最初に中澤が，ロシア・ベルーハ氷河の積雪の花粉分析から同定された化学成分の沈着時期について話し，次に紺屋恵子さん（JAMSTEC）にモンゴルアルタイでの氷河観測とその成果について，特に氷河変動について紹介していただいた．そして，最後に平成 22 年 3 月に定年退職をむかえる佐藤和秀さん（長岡高専）にご自身の研究生活を振り返っていただきながら，研究に対する熱意を熱く語っていただいた．

5.　総評

今回の雪合宿は，雪氷生物学の研究者の多くの参加を得て，雪氷研究の新しい流れを感じることができたと思います．また，本合宿では，学会非会員の研究者に雪氷学会の活動をアピールすることも，彼らとの交流を深めることもできました．この雪合宿が，雪氷学会全国大会での発表や研究集会開催のきっかけになれば幸いです．雪合宿はこれで北海道・青森県・山形県・新潟県・富山県・石川県・長野県で開催したことになります．

写真 3　集合写真（撮影：三宅隆之（国立極地研究所））

いわゆる雪国として知られている秋田県・岩手県・福島県では未開催なので，是非一度訪れて，積雪をながめてみたいと思っています．来年度は分科会副幹事長の倉元隆之さんが幹事を務めて下さいます．充実した雪合宿に発展できるよう，学会会員の皆様からのご意見，ご提案など頂けたらと思います．また，雪氷化学分科会員だけでなく広く学会員の方の参加もお待ちしております．これまでの雪合宿の様子や写真は雪氷化学分科会のホームページ（http://www.seppyo.org/~chemistry）に掲載されています．

（国立極地研究所　中澤文男）

（2010 年 3 月 30 日受付）

第 13 回　雪崩安全セミナーの報告

第 13 回雪崩安全セミナー「ロープの結び方と使用―調査活動の安全確保のために」（雪崩分科会主催，日本勤労者山岳連盟・全国雪崩講習会後援）を 2010 年 4 月 9 日 9：30〜16：00 の日程で群馬県みなかみ町の谷川岳天神平スキー場とその周辺において開催した．参加者は 11 名で，雪崩現場や雪上における調査活動の安全確保に必要な基本技術を習得したいという学会員や大学院生，雪崩分科会関係者が東北，北信越，関東，中部の各地方から参加した．講師は昨年に続き中山建生氏，大河内延明氏にお願いした．最初にロープの使用に必要な装備の説明を受け，必要最小限のロープの結び方を繰り返し練習した後，ロープウェーで

図 1　斜面でのロープワーク実習 1.

図 2　斜面でのロープワーク実習 2.

図 4　谷川岳マチガ沢.

図 3　ロープの扱い方を教わる参加者.

標高約 1300 m の天神平へ移動した．野外実習は，雪崩が発生した急斜面へ行って調査を行なう場合を想定して約 30 度の斜面において行なった．樹木のない雪上でのアンカーの設置やロープで確保しながら斜面を上り下りする方法を実習した．参加者へのアンケートでは，実習は楽しかった，役に立つという意見が多いと同時に，技術を身につけるには継続的な訓練が必要であり，さらなるステップアップの機会を望むという意見が多かった．

（文：雪崩分科会幹事　竹内由香里
写真：同分科会副会長　上石　勲）
（2010 年 4 月 9 日受付）

第 20 回雪崩対策の基礎技術研修会の報告

2010 年 1 月 21 日〜22 日の日程で新潟県湯沢町にて日本雪氷学会主催の第 20 回雪崩対策の基礎技術研修会が開催されました．雪崩分科会はこの研修会の開催に協力し，講師の派遣を行いました．日程は雪崩の恐ろしさとその対処の方法を学ぶためには厳冬期に行うのがよりよいと考え，1 月下旬の開催としました．

今年の研修会の参加者は 40 名で，雪崩対策の前線で活動する山岳救助担当者や雪崩対策に関わるコンサルタント，諸官庁の皆様から雪崩・積雪観測に関する初心者と幅広いものとなっています．そのため今回も座学では「降積雪と雪崩の基

写真 1　講義風景